

令和3年度 学校評価報告書

園名	三田市立藍幼稚園
----	----------

1 教育目標

<p>○心豊かでたくましい子ども</p> <p>○友達といきいき遊ぶ子ども</p>

2 今年度の目標

<p>心はずませ いきいきと遊ぶ子をめざして ～「やってみよう」と心を動かして活動するための環境教育や援助のあり方を探る～</p> <p>【4歳児】 ・安心して生活する中で自分の思いを出しながら、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。</p> <p>【5歳児】 ・友達と思いや考えを伝え合いながら、目的に向かって意欲的に遊びや生活を進める楽しさを味わう。</p>
--

3 総合的な自己評価

<p>昨年度に引き続き、教育活動の制約が続いた中でも、幼児の内面にしっかりと寄り添いながら、活動の内容を考え、時間を十分にとって満足感を味わうことができるようにしていった。また、同一敷地内の小学校との交流活動の充実に向けて、小学校、幼稚園の年間行事の見直しを進めた結果、従来の活動に加え、新たな学年との交流や合同学習が実施できた。加えて、研究主題に基づき、幼児が、「やってみよう」と心を動かし活動する姿や試行錯誤している姿を見守ったり向き合ったりし、達成できた時に十分に認めることが、自信や次への意欲につながり、積極的に遊びや生活をすすめていく姿が見られていった。今後、4歳児と5歳児の混合保育となるが、異年齢のかかわりを大切にしながら、それぞれの発達を保障し、小学校や中学校、地域との交流の中であたたかい人とのつながりを感じて豊かな体験を重ねていくことができるような幼稚園としていきたい。</p>

4 総合的な学校関係者評価

<p>コロナ禍で、園外活動等の様々な教育活動の制約が続いた1年であった。特に園外で実施する自然体験活動や、ゲストティーチャーを招聘した造形的な活動の多くが中止を余儀なくされたが、日常生活の中で、園児が自分で考えて行動している姿に、成長し力をつけていっていることが感じられる。遊びや生活の中で、試行錯誤しながら様々な学びに向かう力を獲得していく姿に、子どものもっている力の大きさを感じる。一人一人、家庭環境が違った園児が、安心して自分らしさを発揮し、友達や先生と一緒に豊かな経験を重ねていくことのできる幼稚園の存在は大きい。来年度は、今年度のコロナ禍での課題をもとに、可能な範囲で工夫を凝らした保育が展開されることを期待する。</p>
--

5 評価結果

自己評価		学校関係者評価		
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
教育課程	○幼児が心を動かし、意欲的に活動する保育内容の充実 ・「やってみよう」「やってみよう」と、幼児が自ら動き出せるような環境や援助の工夫をする。 ・幼児が自分で考え、選び、行動することを支える援助の工夫をする。 ・幼児一人一人の育ちや課題を共通理解し、個々に応じた支援や環境の工夫をする。	園の研究主題に向けて、職員で意見を出し合い、共通認識のもとでねらいをもって保育にあたることができた。「やってみよう」と幼児が心を動かして主体的に活動していくことができるよう、幼児の興味や思いに寄り添いながら、場を設定したり、タイミングよく援助ができるようにしたり努めた。 幼児が自ら考え、行動していくことができるように、教師から指示をするのではなく、願いや見通しをもって見守り、自分で考えたり試行錯誤したりする姿や友達と考え合う姿を支えるようにした。そうしたことで、幼児自身が満足感や達成感を味わったり、自信につながったりしていく様子が見られた。 発達段階や家庭での様子など、個々に応じて丁寧に関わることができるように心掛けた。また、職員で共通理解ができるように連携して関わった。	今後も、幼児の目線に立って、幼児の内面に丁寧に寄り添い、心の動きを探りながら保育を進めていく。 自分で考えて行動することが苦手な幼児には、具体的な選択肢を用意したり他児をヒントにしたりして、その幼児なりに自分の思いで選んだ行動ができるように支援し、経験を積み重ねていくようにする。 保護者とも連携をとりながら、家庭での様子を聞いたり園での姿や成長を伝えたりし、同じ思いで援助をしていく。	子どもが、幼稚園の生活や遊びの中で自分たちで考え進めて行動していく姿は素晴らしい。経験の中で学ぶという大切な時間が保障されていることを感じる。家庭環境の違う一人一人に寄り添いながら、安心して楽しめる場となるようまた、豊かな経験の場となるよう、期待したい。
	○幼児の体力づくりにつながる遊びの場づくりの工夫 ・園庭芝生を活用した遊びや、継続した「わくわく体操」の充実を図る。	わくわく体操では、4・5歳児で一緒に取り組むことで、体力の向上だけでなく、5歳児が手本となって丁寧に4歳児に伝えたり、4歳児が5歳児に憧れたりする機会ともなり、認め合えたり自信がついたりする場もなっていた。園庭芝生は、コロナ禍での配慮で、存分に楽しめていないところがある。	「わくわく体操」については今後も継続して行い、意欲のもてる活動としていく。園庭芝生は、足拭きタオル等の工夫をしながら、存分に楽しめるようにしていく。	今年度に4歳児と5歳児が一緒にしてきたことが、次年度の5歳児の姿に表れることが楽しみである。芝生園庭での遊びは、気候がいい時期に存分に楽しんでほしい。
保護者、地域住民との連携	○地域と連携した体験活動の充実 ・地域の方と連携して体験活動の計画を立てる。 ・活動後にお世話になった方に幼児の気付きや学び、成長などを伝え、幼稚園教育への理解を図る。	例年のように園外に出る活動ができず、遠足や田植え体験が中止となり、サンキウウ牧場に行く回数も減った。体験の回数は少なかったが、活動ができると子どもたちはとても喜び、いろいろなことを教えていただきながら豊かな経験の機会となった。緊急事態宣言に入り、読み聞かせに来てもらうことや、園外保育に出たりすることもできない期間があり、計画を立てることも難しかった。 幼児の育ちについては、クラス通信で伝えたり、随時、送迎の際に伝えたりすることができた。 PTAでの活動の機会がもてず、2名の幼稚園役員が保護者の意見をまとめる際にアンケートを実施し、役員で決定したことを伝えて、職員と準備や段取りを進めた。	感染防止に十分留意しながら、幼児にとって地域の方とつながったり豊かな体験をしたりすることができるよう、できる範囲で工夫して取り入れていく。今年度、3学期に緊急事態宣言が出たために、実施できなかった活動もあったので、来年度は実施の時期も検討する。 保護者が集まっての活動ができにくい状況を踏まえて、伝達の仕方や意見の取りまとめ、共有の仕方などを工夫する。また、役員だけに負担がかかることのないように、内容を検討しながらつながりをもてるようにする。	自然に恵まれた地域であるので、地域を活かして存分に自然体験ができればと思う。地域からも、できることがあれば協力していきたい。 PTA活動は、今年度は制限されていたこともあったが、来年度も、園と保護者、保護者同士が繋がっていくような工夫が望まれる。
	○保護者への積極的な情報発信の工夫 ・登降園の送迎の際に、保護者に幼児個人の園での様子を伝える。 ・通信や掲示板などを活用して、園の取り組みや幼児の育ちなどを伝え、幼稚園教育への理解を図る。			
子育て支援	○親と子が安心して集える場や機会の工夫 ・園庭開放や未就園児交流などのもち方と活動内容を工夫する。 ・子育て支援事業の情報発信の仕方を工夫する。	園内に人を招いての活動が制限されていたため、園庭開放の回数が少なく、ゲストティーチャー等を招いての活動はできず、園の遊具を使っての自由遊びとしたが、普段している遊びを保護者としていたり、保護者同士がゆっくりと交流したりする機会になった。保育時間内での未就園児との交流の場や体験入園の機会は少なかったが実施はできた。	園で交流ができる機会での時間の中で、楽しみにできることやゆったりと過ごせる時間、好きなもので存分に遊びこめる時間など、変化をつけながら内容を計画していく。	今年度は例年のような実施ではなかったが、次年度は工夫ながらの実施で、交流の場を充実してほしい。